

社会福祉法人春献美会 おおくらやまえきまへのぞみ保育園 31年度事業計画

駅の近くで商店街の中という立地の地域性を十分に考慮し、成長に合わせ身体を十分に動かし、運動能力を伸ばす基礎となる身体作りを工夫していきたいと思います。食育としても、作り、食べ、様々な経験を重ねていきたいと思います。引き続き保護者と連携し豊かな園生活へとつないでいきたいと思います。

- 子どもたちが自分の気持ちをいっぱいに出して仲間と楽しく過ごせるように、しっかりと子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、環境を整え活動を支えていきます。
- 保護者がより一層安心して働けるように細やかな心配りを欠かさず、また、子どもたちの普段の生活の様子が保護者に伝わるよう写真やクラス便りを充実させます。

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	常勤保育士数	園児数	備考
めばえ	0歳	2	6	
つぼみ	1歳	3	11	
てのひら	2歳	3	11	
おはな	3歳	1	14	
こえだ	4歳	1	14	
うめ	5歳	1	14	
たおのこ	一時	1		
フリー		2		
合計		14	70	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 290日
24	22	25	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	24	23	23	25	

ウ 健康管理

子ども一人ひとりの発育発達の個人差（個性）を考慮しながら、健康な生活習慣を身に付け、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

- [1] 日常養護・健康管理
- [2] 病気の予防と早期発見
- [3] 安全と事故防止
- [4] 健康増進と保健指導
- [5] 環境衛生

年間保健行事

保健行事	対象年齢
内科健診	全園児（年2回）
尿検査	3歳児以上（年1回）
視聴覚検査	4歳児（年1回）
歯科健診	全園児（年2回）

エ 保育方針

- あたたかい見守りの中で心地よく過ごせる環境を提供していく。
- ひとりひとりの良さを伸ばせるように育ちを援助していく。
- 家庭との連携を密にして信頼関係を作り、子育ての楽しさを共感しあう。
- 地域・保育園・家庭が支えあって子育ての輪を広げていく。

オ 各組の保育目標

うめ組(5歳児)の年間目標

生活や遊び、様々な経験を通して主体的に行動したり、みんなで協力したりする充実感を味わう。人との関わりを大切にし、仲間への親しみや周りの人への思いやりの気持ちを育む。食べる意欲を作り、身体との関係を知る。

こえだ組(4歳児)の年間目標

自分で出来る事の範囲を広げながら自ら行動する。集団生活の決まりもわかり、友達と元気に遊ぶ。栽培や収穫を通して色々な食材を知り関心を持ち、楽しく食べる。

おはな組(3歳児)の年間目標

保育者や友だちとの関わりを通して、友だちと遊ぶ楽しさを知り、人との関わりを広げる。身のまわりのことを自分でしようとする。経験したことを話したり、描いたり表現して楽しむ。栽培や収穫を通して身近な食材に触れ、食べる事の楽しさを知る。

てのひら組(2歳児)の年間目標

基本的な生活習慣に関心を持ち、保育者の援助を受けながら自分でもしようとする。自分の思いや要求を言葉で表し伝えようとする。食生活に必要な基本的習慣や態度に関心を持つ。

つぼみ組(1歳児)の年間目標

ひとり一人の発達に合わせた援助のもと、一日の生活リズムを整えて過ごす。食事、排泄、着脱など身のまわりのことに関心をもつ。五感を使った様々な経験を通し、豊かな感性を育てる。さまざまな食べ物を見たり触れたりして、食に興味関心を持つ。

めばえ組(0歳児)の年間目標

安心できる環境で心地よく過ごす。ひとり一人に合わせた離乳の完了と歩行の開始に向けて保育をすすめ、健やかな成長へと導いていく。

カ 主な行事予定
別途添付

キ 食事

[1] 目標『しっかり食べる子』に育てる。

配慮事項

- 薄味、バラエティーに富んだ献立を心がける。
- 旬の素材を使った献立作りを心がける。
- 見た目にもおいしく、食べておいしい食事づくりを心がける。
- 保護者との連携を密にする。

[2] 食育

毎月 月 ー 予定献立表の配布。アレルギー児には栄養士と保護者でアレルギー児用の献立を確認している。

給食だより ー 保育園の給食の紹介や栄養情報などをまとめ、月1回発行する。

食を考える ー 月1回行われる給食会議にて、献立や提供された食事の感想や反省、改善案などを出し合いよりおいしい食事作りに取り組み、食育を含め食全般についての勉強、話し合いの場としている。また、児童の発育状況を評価し、給与栄養量の目標を定期的に見直す。

活動 ー 味噌作りや野菜作りを通して、自分たちで手作りし食べる喜びを知らせている。

展示 食 ー 玄関ホールにその日の給食の見本を展示する。

[3] 衛生管理

- 衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目にそって確認する。
- 調理人の細菌検査（毎月1回、夏季のみ月2回） 調理室・乳児調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、食器洗浄後熱風庫にて保管、原材料・調理済み食品の保存（2週間）をしていく。

[4] 離乳食に関して

個人差を考え、無理のない離乳を進めていく。1歳児の食事に関しては、完了食後、発達に合わせて個々に対応していく。アレルギー児の「食物除去食対応」も厚生労働省のガイドラインに沿って横浜市の対応マニュアルを基に、それぞれの子どもの症状により対応し、専門医の指導と合わせて除去解除できるようにしていく。

<離乳食の進め方>

- ① 食べ易い形で・・・子どもの状態にふさわしい形で与える。手づかみ食べを十分にし、噛める子どもに育てる。
- ② 栄養と食品のバランスを考えて・・・準備期を終えたら、離乳食の中に穀類・タンパク質類・野菜の三種類を合わせた離乳食を提供していく。卵については、後期食迄使用しない献立にする。

③薄味で・・・素材の味を生かして調理する。

ク 安全管理

非常災害時の避難訓練、消火訓練（毎月 1 回）

不審者対応の実施（年 1 回）

（2）職員の処遇

ア 職員構成（産休・育休中の職員を含む）

施設長	1名
主任保育士	1名（一時保育担当兼務）
看護師	名
保育士	13名
非常勤保育士	1名
保育補助	2名
調理員	3名（栄養士含む）
調理補助	0名
事務員	1名
嘱託医	1名（非常勤）

イ 健康管理

- 健康診断 年 1 回
- 細菌検査 毎月

ウ 職員会議

- 職員全体会議毎月 1 回
- クラス会議毎月 1 回
- リーダー会議毎月 1 回
- 幼児会議 随時
- 乳児会議 随時
- 給食会議毎月 1 回

エ 研修計画

別途添付

オ 退職・福利厚生

- 福祉医療機構退職共済制度加入
- 整体

(3) 保育所の評価について

保育の質の向上を図る為、保育士等及び保育所の業務の質の評価を行う。

ア 自己評価 年1回

年度末までに法人ホームページ等で結果を公表

イ 第三者評価 5年に1回

平成31年度中に受審し法人ホームページ等で結果を公表

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

(3) 備品関係

ア 備品購入予定 パソコン

カメラ 1台

予備用防災ずきん

(4) 災害対策

ア 避難訓練、消火訓練

毎月1回

イ 不審者対応訓練

年1回

ウ 防災設備の点検委託

年2回（内、届出1回）

エ 非常食糧の備蓄

（全児童数＋全職員数）×3食×3日分

3 保護者にむけて

(1) 保育への理解と協力の促進

ア 保育参加

保育参加は主に幼児クラスを対象に6月から12月に、参観は主に乳児クラスを対象に9月、11月、2月に、保護者を受け入れる。園行事なども参加や参観に充てる。

参加、参観の際に、園児と共に給食体験を行う。アンケートを行い意見等を日々の給食に反映させている。

イ 保護者懇談会

年2回予定

ウ お知らせ

- 園だより毎月 1 回以上発行
- クラスだより随時発行
- 保健だより毎月 1 日に発行
- 給食だより、献立表毎月 1 回発行

4 地域社会との連携

地産地消として、子どもたちと地元農家で野菜を育てたり購入したりし、給食やクッキング保育に取り入れていく。

同区の保育所と連携をとり、子どもたち同士の交流が出来るようにする。

地域の方たちにも安心して楽しく遊べる場となるよう、地域交流室、園庭開放や園行事等、様々な形で自由に参加し、相互関係、交流を深め、地域の中で育つ子ども環境を醸成させていく。

《園庭、室内遊び》

地域の子育て中の保護者を対象に講座の開講、園庭や地域室の開放を行い、親子の交流、保育士との交流、園児との交流を図れるようにする。その中で育児相談なども受けることができるようにもする。

《世代間交流》

地域の小学校、中学校、高校等教育機関と連携を持ち、ボランティア・職業体験を積極的に受け入れる。

地域のお話しボランティアと連携し、お年寄りとの交流を図る。

《情報提供・収集による支援》

- 園だより、また関係機関等からの情報を掲示板に張り出し、子育て中の親子に提供する。
- 園外（地域など）から意見も取り入れられるように町内会に加入し、情報把握や提供を行っていく。また、民生委員や保健福祉センターとの連携もとっていく。

《園内活動への参加》

- その他、随時寄せられる育児相談（電話・来園）に対しても温かく対応し、親身になって対応する。
- 園で主催する移動動物園・餅つき等を地域の方にも開放し、地域の親子との交流を図るとともに子育てからのリフレッシュを図る。
- 園庭開放を行い、子育て中の親子を気持ちよく迎え入れ、地域の子育て環境に配慮する。